米国新年便り

―シカゴの小売市場と日常から－

Kanematsu USA Inc.
田口　鑑

飼料輸出入協議会会員ならびに関係者の皆さま，新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

アメリカに赴任して早４か月、あっという間に厳冬が訪れました。先週は-30 度近くまで気温が下落し、同時期にしては過去最低レベルの気温を叩き出したようです。同僚や地元の方々と話すと、昨年よりかなり寒いようです(雪もここまで例年は降らないとのこと)。赴任後４か月間はニュースにも事欠かず、米中関係（最近では中国のレアアースに関する動きでクールダウン)、移民局の取り締まり強化、政府機関の一部閉鎖など、さまざまな出来事がありました。穀物関連では、中国によるアメリカ産大豆の買付再開や、アメリカからアルゼンチンへの融資支援、10 月の WASDE 未発表など、刺激のある毎日を噛みしめながらありがたく感じています。個人的にはスーパー巡りも楽しみのひとつで、こちらも日々の生活に彩りを与えてくれています。本稿では、私の近隣で訪れたスーパーを紹介したいと思います。

アメリカの小売市場

NRF (National Retail Federation)によると、2024 年のアメリカにおける年間小売売上高（自動車ディーラー、ガソリンスタンド、レストランを除く）は 5 兆 2,300-2,800 億ドルと見込まれています。2025 年は 5 兆 4,200-4,800 億ドルと予測されており、パンデミックの期間中を除くと、2010 年以降は年間 3-4%の成長率をコンスタントに続けています。経済産業省の発表では、日本の 2024 年の小売業販売額

が 167 兆 1,530 億円であるため、売上高の観点では日本の約 5 倍のマーケットサイズです。以下、ランキングからいくつかピックアップします。

順位	企業名	本社	売上高 in USA (億ドル)	シェア
1	Walmart	Bentonville, AR	5,687	10.82%
2	Amazon.com	Seattle, WA	2,737	5.21%
3	Costco Wholesale	Issaquah, WA	1,831	3.48%
4	The Kroger Co	Cincinnati, OH	1,508	2.87%
5	The Home Depot	Atlanta, GA	1,482	2.82%
6	CVS Health Corporation	Woonsocket, RI	1,245	2.37%
7	Walgreen Boots Alliance	Deerfield, IL	1,104	2.10%
8	Target	Minneapolis, MN	1,067	2.03%
9	Lowe's Companies	Mooresville, NC	815	1.55%
10	Albertsons Companies	Boise, ID	796	1.51%

▲アメリカのトップ 10 小売業者 (https://nrf.com/を参考に筆者にて作成)

*シェア：2024 年の年間小売売上高を約 5 兆 2,550 億ドルとして計算

1. Walmart

1962 年、もともとは小さなディスカウントストアを Sam Walton が開業したのが始まりで、そこから少しずつ拡大、現在では全米には 4,700 もの店舗を並べるほどの規模にまで成長しました。郊外の街中を運転しているとよく見かけるくらいの頻出度です。

売上は 5,687 億ドルと、2 位の Amazon とダブルスコアの大差をつけています。同社の驚くべき点は、日常使うもので買えないものがない、と言っても過言ではないくらいの品揃えです。食品はもちろん、家電、家具、消耗品、洋服、カー用品、おもちゃ、クリスマスなどのイベントグッズなどなど、ここには書ききれないほどの商品が並んでいます。この商品だけ見ると日本のデパートで収まりそうな気もしますが、これら商品が全てワンフロアで収まっていることにアメリカの

広大な土地を感じております。また近場の Walmart は朝 6 時から夜 11 時まで開店、非常に使いやすいマーケットとなっております。

▲ 近隣の Walmart

2.Amazon

2 位に入ってきたのは EC の雄、Amazon です。売上全体でいうと 6,380 億ドルあるようですが、AWS や広告事業などのサービスは除いた数字が NRF では反映されています。近隣では Amazon Fresh という実店舗もあり、生鮮をはじめとして様々な商品を販売しております。

11 月には Amazon ブラックフライデーセールも実施しており、毎年このセールを心待ちにしている方も多くいらっしゃると思います。私も勢い余って色んなものを買ってしまいましたが、アメリカの Amazon は税別で値段表記がされているため、仕上がりが思ったより高くなってしまったのは内緒です。Amazon に限らず

ですが、州によって税率が異なるためなのか、スーパーも税別で値段表記がされています。

▲近隣の Amazon Fresh の店舗

▲心なしか周辺スーパーより高め

余談ですが、他の小売企業もブラックフライデーへの気合の入り方も尋常では

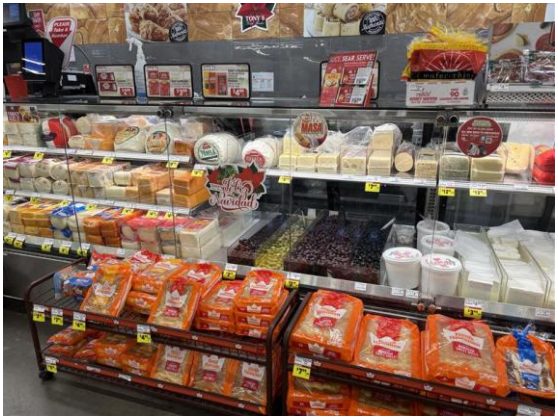
ありません。消費者も気合が入っており、ブラックフライデーの週末には、近くのモールに早朝7時から車の列ができていました。後から聞くと50%オフの10%オフのさらに10%オフ、のようなセールもしていたようで、もはや計算が面倒なくらいの値引きセールを実施していたとのことです。

ランク外のスーパーではありますが、個人的にはTony's Fresh Marketが好きで良く行きます。

1979年にイタリア系の移民Tony Ingraffia氏とDomenico Gambino氏の2人によって創業された会社で、当時はシカゴ初の家族経営の食料品チェーンとして誕生したようです。推定売上は$142Mと上位ランカーと比較すると小規模ではあるものの、ローカル感(たまに塩や砂糖もこぼれ落ちている)と中南米(イタリア系ではなく)の輸入商品がスパイスの匂いを良い塩梅に店内に放っており、少しテンション上がります。

▲ 創業者の2人(https://www.tonysfreshmarket.com/より引用)

このように肉やチーズも量り売りで、「マーケットに来た感」を楽しめます。



▲チーズやハム、ソーセージが塊で販売されており、必要数量に応じて店員がカット、量 って渡してくれる仕組み

上述の通りスーパー巡りが趣味で、いわゆる“どローカル”なお店に足を運ぶこともあります。普段住んでいるエリアは比較的安全ですが、シカゴのダウンタウンは場所によって雰囲気が大きく異なり、一本通りを外れると少し注意が必要なエリアもあると感じます。特に南側については、以前からそうした話を耳にします。

先日ダウンタウンで夕食とるために界隈のパーキングに駐車し、夕飯終了後に駐車場に戻りいざ出発しようと前を見てみると、アラートがこれでもかとな

っている車に男性が乗り込んでおり、鍵も持っていなさそうでしたが、ハンドル下で手を動かしてガチャガチャしている光景に出くわしました。映画でしか見たことないシーンを至近距離で目撃するとは思っておらず、驚きと同時に身の引き締まる思いがしました。幸いトラブルに巻き込まれることはなく、その場を離れましたが、エリアや時間帯によっては注意が必要だと改めて感じた出来事でした。大都市とはいえ、シカゴを訪れる際にはぜひご注意いただければと思います。

▲ミシガン湖とダウンタウンのビル群

こんな物騒な顔を見せるシカゴですが、ダウンタウン近くのミシガン湖では様々なレジャーを楽しむことができます。先日、日本でもたまにしていた釣りをアメリカでもチャレンジしようと思い、先日ミシガン湖に行きました。ミシガン湖ではブルーギルしか釣れないよと同僚に言われたので、サーモンを釣ろうと意気込んだ釣行でした。

ミシガン湖のご紹介を簡単にしますと、面積は約57,800 km²で北海道とほぼ同じ、五大湖の中では２番目に大きい湖で、イリノイ州への主要な水源になっています。夏場はクルーズ、カヤックなども楽しめ、湖周辺には砂浜もあり海水浴もできるような仕様になっています。また物流の航路でもあり、大規模な貨物輸送にも一役買っている湖です。

そんな湖でサーモンを釣り上げて同僚にドヤ顔しようと思いましたが、釣れたのは３匹のハゼだけ。しかもこの魚、生態系の破壊・在来魚の捕食・爆発的な繁殖力など、害魚扱いされているラウンドゴビ―という魚でした。湖の治安が少しでも良くなったことを祈っています。まだ釣果を報告していないため、同僚はずっとサーモンを待ち続けていると思います。

まとまりのない文章になってしまいましたが、以上にてシカゴのスーパー＋αの紹介とさせていただきます。

近年は地政学リスクが高まっており、食糧安定供給の重要性が改めて見直される中で、北米拠点においてもその機能及び真価が一層問われているとひしひしと感じます。今年も変わらず食糧安保に貢献するべく、日々努めてまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

末筆ではございますが、飼料輸出入協議会及び会員各社の皆様のご健康とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。